
「東京マガジンバンクカレッジパートナー通信」は、東京都立多摩図書館とカレッジパートナーの皆様の情報共有と交流を図る通信です。

東京マガジンバンクカレッジの事業や雑誌を巡る話題を電子メールでお届けします。

<目次>-----

【1】講演会「廃線は語る」参加者有志による「廃線歩きのしおり」をご活用ください！

【2】企画展示「Old meets New 東京 150 年 変わりゆく東京」第 2 期が始まります。

～パートナーが撮影した写真を展示します。ギャラリートークもあります。～

【3】ミニ展示「引退！女性誌でみる“安室奈美恵”」開催中

【4】最近の雑誌記事から

【5】東京マガジンバンクの所蔵雑誌から

【1】講演会「廃線は語る」参加者有志による「廃線歩きのしおり」をご活用ください！

6月24日(日)に開催した講演会「廃線は語る」(講師:名取紀之氏)の参加者有志の皆様が作成した廃線歩きのしおりを都立図書館ホームページに掲載しました。

https://www.library.metro.tokyo.jp/guide/event/seminar/4816_20180618.html

しおりは、①下河原線(多摩川の砂利運搬に用いられた路線)、②水根貨物線(小河内ダム建設資材の輸送に用いられた路線)、③羽村山口轻便鉄道(山口貯水池建設のために設けられた路線)の3種です。

7月28日(土)に開催した勉強会の後、それぞれのグループが実際に現地を訪れて、最新情報を盛り込んだしおりを作成してくださいました。コース、地図、見所紹介記事に写真もふんだんに取り入れ、どのしおりも大変充実した内容です。

作成に携わった皆様ありがとうございました。

下河原線チームのメンバーの感想を掲載します。作成メンバーの楽しみ方も参考にして、是非しおりを活用して廃線跡を歩いてみてください！

メンバーA

旧下河原線廃線跡を散策すると、色々なことに想いを巡らすことができます。砂利を採取した後の多摩川の流れや河川敷はどのように変化したのか、旧下河原線は国分寺市や府中市に何を齎(もたら)したのか、旧下河原線開業と共に中央線に国立駅を開業させていたら旧下河原線は国立駅から敷設されたのかどうか、等を考えながら散策するのも楽しいことかもしれません。

メンバーB

ありふれて見慣れた景色の中にも、いつもとは違う視点で見ると、思わぬ発見があるものです。今回、多くの方と一緒に「下河原緑道」を歩いてみて、様々な視点での切り口があって、想像を巡らせて推論することが楽しかったです。

メンバーC

旧下河原線の跡を歩いてみると、北府中駅からの南側の大部分は緑道となって残っているのは数ある廃線の内でも境遇として幸せな部類の廃線跡だと思いました。しかし、そんなことでは飽き足らず、その後、旧下河原線の鉄道境界標からの線路敷の実際の寸法が気になりだしたり、旧下河原駅の終端部が立派な車止めでもなく、ありがちな枕木を積んだものでもなく、用水路の中空をレールが浮いた状態で終わっているのをネット写真で見つけ、何とも杜撰(ずさん)な終わり方に衝撃を受け、確認に行ってみました(さすがにとつくに消滅していましたが。。。)。尽きることがないんですね～。

メンバーD

鉄道関連の関心からではなく、散策ルートとしての旧下河原線に初めは興味を持ちました。廃線紹介しおり作成の機会を得て、グループの皆さんから昔の写真や関連資料を見せていただき、線跡のフィールドワークで色々なことが分かってくるうちに、旧下河原線が時空の彼方から蘇って来て、その車両に乗った私を50年前に連れ戻し、当時の思い出にしばし浸らせてくれました。このグループの一員として共同作業に加わることができて、貴重な体験でした。バックグラウンド、年齢、性別を超えて自由に意見を交換できたことは、とても良い思い出になります。

メンバーE

旧下河原線は自宅からも近く旅客電車の単行運転が魅力でした。今思えば、鉄道写真の撮影を始めた切っ掛けだったのかもしれませんが。その後国分寺に通学し、今回西国分寺の都立多摩図書館でこの『廃線紹介しおり』作成プロジェクトに参加。何かと国分寺辺りにはご縁があります。廃止から45年が過ぎ死蔵写真の活用を嬉しく思います。企画制作でご指導頂いた諸氏にも感謝です。

【2】企画展示「Old meets New 東京 150 年 変わりゆく東京」第 2 期が始まります。

～パートナー撮影の写真を展示します。ギャラリートークもあります。～

10月25日(木)から、東京府開設150年記念企画展示「Old meets New 東京 150年 変わりゆく東京」第2期が始まります。

第2期展示では、パートナーの皆様からいただいた“多摩の今”を見せる写真を展示します。

多摩地域の歴史に精通した講師等によるギャラリートークも実施します。お聞きになれば展示の楽しみが倍増します！

是非おいでください。

■第2期展示「都域の拡大と変貌」の概要

「変貌し続ける都市 東京（東京都立中央図書館巡回展示）」、「映像で知る東京」、「多摩昨日・今日・明日」の3つのエリアに分け、錦絵(複製)・地図・写真・ペーパージオラマ等多彩な資料を展示します。

■展示期間

平成30年10月25日(木)から12月16日(日)まで

*休館日:11月1日(木)、11月16日(金)、12月6日(木)

■新旧対照写真展示

「多摩 昨日・今日・明日」のエリアでは、多摩の発展を語る上で欠かせない6つの地点について、大正から昭和に至る昔の写真と今日の写真とを対比して展示します。

昔の写真については、公益財団法人たましん地域文化財団歴史資料室はじめ各所蔵機関にご協力いただきました。

“多摩の今”を示す写真は、東京マガジンバンクカレッジ個人パートナーがこの展示のために撮影したものです。写真を撮影、提供くださった皆様、ありがとうございました。

新旧写真で、目覚ましい変貌を遂げた多摩の姿をご覧ください。

■エキスパートによるスペシャルギャラリートーク

時間はいずれも午後3時から30分程度です。

(1)解説:たましん地域文化財団歴史資料室長 保坂一房氏

開催日時:10月27日(土)、11月18日(日)、12月5日(水)

(2)解説:東京都立大崎高等学校ペーパージオラマ部

開催日時:11月24日(土)

(3)解説:当館司書

開催日時:第2期の期間中の毎週水、土、日曜日(上記(1)(2)の日を除く)

【3】ミニ展示「引退！女性誌でみる“安室奈美恵”」開催中！

9月16日に引退した歌手安室奈美恵さんが表紙を飾った女性誌の展示です。

『an・an』1997年11月7日号から『Spur』『steady』2018年9月号まで、38誌を展示しています。歌とダンスに加えファッションでも人気を集めた安室さん、20年間様々な雑誌の表紙も飾っていたんですね。

展示は10月末までです。ささやかな展示ですが是非ご覧ください。

展示ウォールでは、「雑誌の表紙に見る『和』のころ」をテーマに、『四季の味』『YUCARI』『美しいキモノ』などを展示しています。こちらも是非ご覧ください。

【4】 東京マガジンバンクの所蔵雑誌から

この欄では、所蔵雑誌の中から書店では見かけないものを中心にご紹介しています。

今年の夏も、地震、台風などの自然災害が各地を襲いました。過去に学び、過去を超える備えがますます必要になっています。

今回は、災害が投げかけた様々な課題の解決の糸口を探る大学の取組を伝える雑誌をご紹介します。

■『震災学』東北学院大学 荒蝦夷(発売) [半年刊 創刊:2012年 当館所蔵:第1号(2012年7月)~]

東日本大震災は、エネルギー、地域再生など、広く深い問題を社会に問いかけました。『震災学』は、被災地にあつて被災した人々と共に生きてきた大学が、問いを共有する人々の意見交換の場となることを望んで、創刊した雑誌です。

創刊後間もない時期は、被災地の現実を伝える記事が多く見られますが、最新の第12号(2018年3月)では、「震災と音楽」「震災と演劇」など創造に向かう取組を伝える記事が目立ち、復興が新たなステージに入ったことが感じられます。

是非ご覧ください。

(開架の書架「A11」、分類番号「16 防災」の棚に最近1年分があります。)

■『災害・復興と資料』新潟大学災害・復興科学研究所社会安全システム研究部門 [年刊 創刊:2012年 当館所蔵:第1号(2012年)~]

編集・発行元の「新潟大学災害・復興科学研究所」は、災害と復興について、自然科学から人文・社会科学、医学まで幅広い分野が連携して研究を行い、その成果を広く社会に還元することを目指す機関です。

ご注目いただきたいのは、中世・近世の地震史料に関する記事です。事例として取り上げられるのは、主に新潟県域に被害を及ぼした地震ですが、「地震史料としての日記の性質—19世紀の武蔵国多摩地域の地震を事例に—」(第9号掲載記事)など多摩地域に関するものもあります。

記録を掘り起こし、記憶を伝えることの大切さを思いつつご覧ください。

(開架書庫の書架番号「M02」、分類番号「06 図書館」の棚にあります。)

【5】 最近の雑誌記事から

秋の旅行シーズン到来！ 旅と鉄道に関連する楽しい記事をご紹介します。

■『時刻表』94巻10号 通巻1113号(2018年10月) JTBパブリッシング
(特集)あの伝説の白紙改正から50年「よん・さん・とお」大研究

「よん・さん・とお」とは、今から50年前、昭和43(1968)年10月1日に行われた伝説の国

鉄ダイヤ大改正です。

この改正を機に、通勤列車増強などハード面の改善のほか、乗客がわかりやすく利用するためにピクトグラムを導入するなどソフト面の改善もなされたそうです。

ご覧いただき、旅の豆知識として披露してみたいかがでしょうか。

(開架書庫の書架番号「M08」、分類番号「40 乗り物・交通・観光」の棚にあります。)

—編集後記—

今号では、廃線巡りのしおりのホームページ掲載についてお知らせしました。猛暑の夏が終わり、散策や旅行によい季節です。是非しおりを活用し、廃線巡りを楽しんでください。10月20日(日)、多摩セクションの講演会&地域散歩を行いました。10月25日(木)からは東京150年記念展示第2期が始まります。今後も様々なイベントを計画しています。どうぞお楽しみに。

東京マガジンバンクカレッジの活動を一層充実させるため、今後ともパートナーの皆様の
お力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

当メールマガジンに対するご意見・ご感想は下記までお寄せください。

—編集・発行—

東京都立多摩図書館東京マガジンバンクカレッジ担当

〒185-8520 国分寺市泉町2-2-26

TEL:042-359-4020

E-Mail: S9000044@section.metro.tokyo.jp

ホームページ: <http://www.library.metro.tokyo.jp>
